

元和小学校 令和7年度以降の教室及び放課後児童健全育成室確保のための施設整備案

		内容	利点・課題	整備数	必要な事後対策	最終整備数
案1	学校敷地内に別棟で校舎を建設	鉄筋コンクリート造ではなく鉄骨造を選択し、安全面を確保しながら低コスト・短期間の工事を行う。 学童保育室を移転する。	○ピロティ教室化との重複投資が回避でき財政負担が軽減。 ▲予想よりも児童数が増えない場合は余裕教室が生じてしまう。 ○学童(補助率 5/6)・小学校(補助率 1/2) 2つの補助金が活用できる。 ○図工室・図書室の確保が可能に。	教室6室 学童4室	なし	教室6室 学童4室
案2	ピロティの教室化(既存校舎の増築)	校舎内のピロティに3教室増築する。	▲検討・設計時に専門的調査が必要。 ▲将来的には不足が見込まれる。	教室3室	さらに学校敷地内別棟校舎建設 6室	教室5室 学童4室
案3	学校敷地内に別棟で放課後児童健全保育室を建設	現在1教室・ミーティングルーム・多目的ホールの3か所を使用しているが、児童増加分を見込み施設を別棟で整備する。	○学童整備の補助金が活用できる。 ▲小学校の教室不足解消としては、1室増では不足するので更なる整備が必要。	学童4室	さらにピロティの教室化 3室	教室3室 学童4室 不足

* 学区の変更：今回は検討しない。

* ピロティとは 2階以上の建物において地上部分が柱を残して外部空間とした建築形式